

2016 年度第 2 回地域会議議事概要

2016 年 12 月 20 日（火）、青森市内において地域会議を開催しました。

当会議は、私ども日本原燃㈱が地域の皆さまから信頼していただける企業となることを目指し、弊社経営層が直接地域の皆さまのご意見やご指摘などをお伺いして、事業活動に活かしていくことを目的に開催しているものです。

【委員（五十音順）】

芦野 英子	様	エッセイスト
井口 泰孝	様	東北大学名誉教授・弘前大学学長特別補佐
菊池 としえ	様	六ヶ所村保健協力員協議会会長
北村 真夕美	様	㈱青森経営研究所代表取締役社長
小林 昭男	様	上十三法人会六ヶ所村支部副支部長
武輪 俊彦	様	武輪水産㈱代表取締役社長

【会議風景】



【議 題】

「原子力規制委員会の保安検査に係る指摘事項について」
「電波法の遵守に基づく再発防止およびコンプライアンスの徹底について」
「労働時間管理に関する社内調査結果について」

【議 事】

◆弊社副社長の挨拶概要

日本原燃の津幡でございます。

本日はお忙しい中、地域会議の委員の皆さま方におかれましては、貴重なお時間を賜り、誠にありがとうございます。また、日頃より当社事業に格別のご理解

と、ご指導を賜り、重ねて御礼申し上げます。

当社の事業は、「地域の皆さまの信頼によってはじめて成り立ち得る」ものでございます。このことを常に念頭におき、原子燃料サイクルの確立に向けた新しい安全の姿を作り上げてまいり所存でございます。

本日は、濃縮・埋設事業者に対する平成28年度第3回保安検査の結果について、電波法の遵守に基づく再発防止およびコンプライアンスの徹底について、および労働時間管理について後ほどご説明させていただきます。

保安検査の結果につきましては、安全・品質本部の保安活動に関して、自ら掲げた業務プロセスに沿った対応ができていないなどの問題が確認され、12月14日に開催されました原子力規制委員会において保安規定違反と判定されました。品質保証は、私ども原子力事業に携わるものの活動の基本であり、その推進役となるべき組織の活動が保安規定違反と判定されたことは、誠に申し訳なく、きわめて重く受け止めております。

電波法につきましては、10月21日に総務省東北総合通信局長から、電波法の遵守について嚴重注意を受けるとともに再発防止対策を求められました。これについては、11月17日に再発防止のために必要な措置およびコンプライアンスの徹底に向けた対策の実施状況を取りまとめ、総務省東北総合通信局に報告いたしております。

また、労働時間管理についてであります。本年2月に一部の社員について時間外労働の過少申告を確認した時点で、むつ労働基準監督署に報告し、全社を対象とした社内調査を実施いたしました。その結果、約480名の過少申告者がありました。今回の調査結果を真摯に受け止め、今後、更なる労働時間管理の徹底を図ってまいります。

さて、皆さまご存知のとおり、11月15日に「使用済燃料再処理機構」と再処理事業および廃棄物管理事業の業務に関する委託契約を締結いたしました。

当社としては、このことを重く受け止め、引き続き安全確保を大前提に、地域の皆さまの声に耳を傾けながら、これまで培った専門的な知識や経験を活かし、全力で業務を遂行してまいります。

最後になりますが、再処理工場のしゅん工をはじめ、サイクル事業を着実に進めていくためには、県民の皆さまのご理解が何より重要になってまいります。本日は、委員の皆さまから、私たち日本原燃が県民の皆さまのご理解を得るために、どのようにすべきかについて、ご意見・ご提言をいただきたいと考えておりますので、忌憚のないご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆質疑応答

(委員) それでは、委員の皆さんから、(1) 当社の品質保証活動へのご意見・ご提言、(2) 当社のコンプライアンスの徹底に向けた対策への評価・ご意見、(3) 労働時間管理の対応に関する評価・ご意見といった観点から、忌憚のないご意見、ご提言をいただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

(委員) 家庭用の電子レンジが登場した最初の頃は、各家庭で高周波の免許

- (当社) 現在の申請を行っていたが、現在はどのようなになっているのでしょうか。現在、家庭用についてはメーカーで型式認定を取っているため申請の必要はありません。
- (委員) なるほど。
- (委員) 家庭用機器については、メーカーが努力して一括申請という形になったのです。業務用は能力の大きな機器なので、個別での申請になるのです。
- (当社) 当社の場合、原子力関係の法律については、よく理解していますが、電波法については、原子力に直接つながらないので、知識が非常に弱いということがありました。今回の件を踏まえて、全社で各部署が関わっている法律を洗い出し、この他に手続き漏れがないのかについて、現在点検を進めているところです。
- (委員) この話は大変難しい問題だと思います。私の会社でも、全員で関わっている法律について、担当の部署はどこなのかを確認していますが、それでも把握できていない法律もあると思います。知らないというのは許されないが、知り得なかったというのも事実。どのような法律があるのかについて確認することは難しいです。機械を納入する際は、業者が教えてくれるべきだと思います。しっかりと教えていただくということがないと、完璧に把握することは難しいです。信頼できる業者の方とお付き合いをされることが重要かと思います。それから、労働時間の件については、繁忙期に無理がかかるというのは予想できます。この対応についても社会的に厳しく言われているので、トップ中心で動くことで解決すべき問題だと思います。36協定違反になった時の対応を考えておくことで、このようなことを繰り返さないようにできると思います。
- (当社) 電波法については、購入する際に調達先であるメーカー等へ電波法の申請の必要性について確認する仕組みがありませんでした。機器の取扱説明書には、電波法の申請の必要性について記載されていましたが、担当者の知識がないため見逃してしまった例もありました。今回、調達先であるメーカーに情報提供を促す仕組みを作りました。電波法に限った話ではありませんが、ご指摘のとおり、世の中の全ての法律に精通することは難しいです。今回の件を踏まえ、全社で関わっている法律について、総合的なチェックを行っています。その結果は、資源エネルギー庁に報告することになっています。また、調査の中で手続きが漏れていたということもありましたので是正措置を取っています。
- (当社) 時間外管理についてご意見を賜ったことはそのとおりだと思います。労働時間の意識について、社内で調査を行った結果、組織的に上長が部下に対して過少申告を指示したということではありませんでした。使命感のある一部の社員が、法令の範囲内に収まるように自発的に行ってしまったということでした。職場の中で、課長が本来、管理しなければならなかったが、実態は自主管理に委ねられてしま

い、きめ細やかな管理ができていませんでした。また、社員の側も「昭和のモーレツ社員」的な文化に染まってしまい、しっかりとした管理が文化として浸透していなかったという、この2つの点を払拭するために、現在、取り組んでいるところです。

(委員) ここに来て、細かなミスが新聞に報道されることが多く、県民としても「またか」という感が否めません。地域会議の発足当初からずっと関わってきて、素人ながら繰り返して「この点は大丈夫なのか」と、お尋ねしてまいりました。このようなことが起きるには、組織が大きくなりすぎて、隅々まで血液が行き渡っていないという状況があるのではないかと感じています。労働問題に関しても、労使の協調の在り方や一部の熟練した方々が一手に仕事を負わなければいけないという現場の空気も、長い時間のなかでギスギスしたものが蔓延しているように感じます。これまでに日本原燃の職員が何十人も私の会社に説明のためや広報誌などを持って訪問くださっていますが、その中に全国の原発などの施設で勤務されてきた方がおられ、その方が六ヶ所について「六ヶ所はちょっと違うんですね」と言っていました。その方が言うには、「全国の原発にあるような手厚い福利厚生が六ヶ所にはない」とのことでした。その時は、気にはなりましたが、詳細にお聞きいたしませんでした。今、そのことを思い出しています。全国の原発で働く方々と同じ水準にするために、交流されることも良いかと思えます。社長が全社員にメッセージを出されたということですが、普通の企業であれば、折に触れて全社員にメッセージを出しています。それから、昼食も一緒に食べられる時は、部課長と一緒に食べたり、社長は一年間かけて各部署と順番に食べていくということも良いのではないのでしょうか。すでに取り組んでいるかとは思いますが、こんなことを取り入れて、社員の声を吸い上げていただきたいです。顔色を見れば、社員がどんなことを考えているかということが分かると思います。人の心と血が通う現場にさせていただきたいと思えます。地域会議の発足当初、目安箱のようなものをお願いしました。それが内部通報制度のような形になっているとは思いますが、上手く機能していないという現実もあるかと思えます。是非この点についても機能的に運用していただける在り方を、日本全国のトップランナーの知恵を頂いて運用していただきたいです。非常に残念なトラブルが多発しています。「騙そう」とか「紛らわそう」ということでなくても、重なりすぎていると感じていて、私も非常に残念です。ですが、気がついた時からは、あとは改善していただければ良い方向に進んでいただきたいです。品質という言葉は、とても大切です。日本原燃は、品質の良い仕事を目指しておられるが、ここに来て、品質に疑惑を持たれる報道がされています。NHKのニュースを見ていると、原子燃料サイクル事業そのものが大きく見直されるかもしれないという話もありました。そういう時に、「青森県の六ヶ所」は、世界に誇れるような良い仕事

をしている、良い人材も揃っているという評価を広く得られるような、高品質の良い仕事を築き上げていただきたい。トヨタのように毎日改善が提案されているのか、課題や問題は提起されているのかという点についても、かねてより関心を持っています。是非、風通しが良く、機嫌良く働ける職場作りという点もお願いします。

(当 社) ありがとうございます。社長のメッセージについては、積極的に出していきたいと思います。社長を身近に感じてもらうことが大切だと感じています。社長は、継続して対話活動に取り組んでいます。時にはお酒を入れての対話活動も行っています。私たちも対話活動は非常に大切だと感じています。この対話活動も、課長レベル、部長レベル、経営層レベルでそれぞれが現場の社員に対して行っていないといけません。直属の上司に伝えにくいことも、ひとつ上の上司になると伝えられるということもあるかと思っています。そういった対話を行っていきたいと思っています。本音で話せること、話しても大丈夫という安心感をもってもらえないと対話になりません。このような信頼がないと、対話したつもりで終わってしまいます。是非、職場での人間としての信頼関係を強化していきたいです。PDCA サイクルを回して、改善し反省し、継続して行っています。今回の保安規定違反の件、コンプライアンスの件でもそうですが、世の中が非常に厳しくなっていく中、私たちが変わっていけないということがあります。その結果、さまざまな問題が出てきてしまっています。意識の問題や仕事量によって、社員のモチベーションが下がっているわけではありません。六ヶ所のメンバーは世界のサイクルを背負う気負いを持っています。その中で今回のような状況になったのは残念です。徹底的に社内風土や組織に踏み込んで調査を行い、対策に取り組みます。現在、トヨタのような改善活動を考えています。トヨタの「日本原燃」方式を身につけていきます。本当に申し訳ありません。しっかりと頑張っていくことを約束したいと思います。ありがとうございました。

(委員) 今回の件は非常に悲しい思いで一杯になりました。六ヶ所村の地域住民と日本原燃の信頼関係について「素晴らしい」「羨ましい」と、どこに行っても言われます。「このような信頼関係がどうしたらできるのですか」とも聞かれます。だから、私もこのことを誇りに思っていました。今でも誇りに思っていますが、このように何度もトラブルなどが出ると、「たるんでいる」と思います。この信頼関係を作るのに、どれだけの苦労があったのか、皆さん忘れているのだと思います。時間が経って忘れてしまったのではないですか。今でも地域担当の社員は、細かい信頼関係を作るために努力をしています。それなのに、会社の中にいる方々は誤魔化したり、嘘をついたりしています。誤魔化していないと言っても誤魔化しているし、嘘をついていないと言っても嘘をついているのと同じことです。結果がこうなのですから。原燃を誘致した時から、皆さんが苦労して信頼関

係を作ったことを上の人も下の人も忘れてしまっているのではないかと感じています。信頼関係がなくては原燃はやっていけないですよ。誘致の時も、放射能から子供を守るために「カッチャ軍団」というものができました。夫も子供も動かして反対する、すごい力を持ったお母さん達を信頼させるために、どれだけの苦勞をしたことを忘れています。何十年も前なので風化しているかもしれませんが、担当の方が何人も、話を聞いてもらえなくても、飲めないお酒を朝から飲まされても、何回も足を運んで、やっと話を聞いてもらえるようになるのに何年もかかっているのです。それから、地域の方に社員の皆さんも良くしてもらっています。「カッチャ軍団」をうならせる良いこともたくさんしてくれています。例えば、地元の祭りでも、原燃の社員が人を集めて一生懸命踊ってくれて、お母さん達も「原燃の人の踊りを見に行こう」と安心して言っています。これが長い時間を費やした信頼関係なのです。お母さん達に信頼されるのが一番強いのです。本当に夫も周りの仲間も動かします。そういう意味で頑張ってきている人がいるのに、騙したということではないと言っても、結果的に不愉快です。こういうことで信頼関係が薄くなることは、私は寂しいと思っています。私も信頼関係を作るために一生懸命頑張った人間です。原燃を誘致した時を思うと本当に悲しくなってきました。賛成した店では買うな、賛成した人間と話をするなどという、文章では「村を二分する論争」と書かれているが、実際は「骨肉の争い」でした。恐ろしいくらいの反対騒動があったのです。地元の間人として、そうした中で信頼関係を作ってきたことを皆さんが「忘れてるな」と思う寂しさと「たるんでいるな」「何しているんだ」という気持ちで一杯です。ですから、何とかそういう信頼関係を続けていけるように決して裏切らないということをお願いしたいと思います。

(委員) 六ヶ所に来まして約40年になります。当時、まだ日本原燃はありませんでした。むつ小川原開発、それから日本原燃がやってきました。もう私は六ヶ所から抜けることができません。それは日本原燃があるからです。そういうことから、原子力規制委員会が安全管理部門を指摘されたことについて、非常に残念に思っています。ここで聞きしたいのですが、しゅん工はどうなるのかお聞きしたい。よろしくお願いします。

(当社) ありがとうございます。立地の過程があつて我が社があるということ社員に浸透させなければいけない、というのが、私たち地域・業務本部の仕事です。私たちの諸先輩が大変な努力してきたのも事実ですが、委員のお話にありましたように、一番大変だったのは、立地の際に悩まれて、私たちの事業を受け入れることを決断された方々であることを、私たちは絶対に忘れてはいけません。今回の保安活動の問題では、皆さんのような視点が抜けていると言われると、そうだとおっしゃるを得ないことをやってしまったと思っています。

本日の会議には、そういうお言葉を頂戴することを目的として臨みました。先ほどの、安全品質本部による保安活動に関する私の説明では、「虚偽ではなかった」点など、客観的に申し上げたのですが、一方では、そもそもどれも絶対にやっては駄目なことです。これは皆さんにとって許しがたいことだと思います。マスコミに大きく報じられ、原子力規制委員会から指摘を受けたことは、事実として受け止めざるを得ません。そういうことを、分かっていないのかと問われると、そのとおりだったとしか申し上げられません。本日出されたご意見については、社内に伝えなくてはならないと思っています。六ヶ所村の村長さんや青森県からも同じことを言われています。地元の皆さまからも、全戸訪問でさまざまなご意見を頂いているでしょう。それらのご意見を、社内に伝えなくてはなりません。先ほど委員からのお話にありましたように、立地の経緯、「カッチャ軍団」のような人たちがいて、現在につながっているということを、社員は仕事に没頭してしまうと忘れまいがちです。今回の件でも、どのようにしてこの件を対応するか、ということを実に考えてまいがちです。地域の皆さまとのことを、忘れてしまっている可能性があります。そのことを率直に反省し、このことを、社内に伝えていかななくてはならないと考えます。

委員より、NHKの番組の話がありましたが、NHKのような影響力の大きなメディアが、もんじゅの話を取り上げてサイクル事業について論じているときに、このような問題が同時に発生してしまったことは、最悪だと思っています。私たちに隙があったとしか言えません。1月末の報告に向けて、事実関係の調査を、外部の方のお力を借りてやっていきたいと思っています。安全審査についても、時間が延びることになるかもしれません。

しゅん工時期についてのご質問ですが、まだ時間がありますので、工事等を短縮するなどして対応することができるのではないかと考えています。しかしながら、私たちにとっては、新規制基準適合性審査に合格することがモチベーションの1つですので、社員も落胆しているのではないかと思います。過去もそういうことがあってもがんばってきましたので、今回も、とにかく一歩ずつ進めていきたいと思っています。

(委員) PDCA サイクルということをお聞きしましたが、PDCA を継続するという事は、A で終わるのではなく、そこで課題や問題に向き合って、また PDCA を回していくということです。こういうことを、皆さんすぐに忘れてしまいます。コンプライアンスも同じです。調査し、どのようなアクションを取って、どのように評価するかという PDCA を回してもらいたいです。超過労働については、管理職の方も自分の健康を守るために、現場の社員の身になって考えてもらうために時間管理をしっかりとやってもらいたいです。世の中はものすごいスピードで動いています。スタンダードも変わって

きています。このことをよくご理解していただければと思います。私は、原子力船むつの時代から青森県に関与していますが、いろいろな思いがあります。これは地域会議の委員の皆さんの思いでもあります。幅広い地域の方や、仲間である社員の皆さんに意見を聞いて取り入れて、日本原燃のコンプライアンスに取り組んでもらいたいです。是非よろしく願いしたいと思います。

(委員) 6月に福島第一原発を見学させていただきました。自然災害が多い国で次にこのようなことがないとは言えないと思いました。後処理に懸命に取り組む姿や体制を目のあたりにしましたので、その事をさまざまな場で話をいたしております。今、我が国の原発は、川内原発と伊方原発が動いています。是非、稼働している施設を拝見できればと思います。よろしく願いいたします。

(当社) PDCA サイクルでの改善について、どうやって我々がルール、当たり前前にできるようにすることが目標です。今回、徹底して行い、信頼を失うことがないようにしていきます。人間はミスをするものですが、仕組みとして周りが間違いに気付けるように徹底してやります。

(委員) ひとつお願いがあります。記者会見での工藤社長の顔が暗いと思います。記者会見は報告と暗い話ですよ。もっと明るく良いことも発表してほしい。そういう努力もしてもらいたいです。悪い話ばかり広がるのは嫌です。

(委員) もう地域とか日本ではないと思います。グローバルの一番厳しいスタンダードを更に超えるということをよろしく願いします。最後のお願いです。

(当社) ありがとうございます。いろいろなご意見をいただき、重要なご意見を頂いたと思います。川内原発については、どのように進めて再稼働に到達したのか、その過程を知る必要があります。実現させたいと思います。

以 上